

大熊由紀子さんが朝日を「卒業」から介護まで多彩な仕事

「四月からは、原稿持ってきてね書いてねえんだから」。『読書院』を訪ねるや、大阪府立女子大の「朝日新聞で店じまい」に向かってございました。女性が定期採用でなにかした時に入社。女性の記者。社員の先駆けの一人にして、会社に馴染むからて働く条件を整え、多くの後輩女性を心身ともに支えたキーパーソンでした。四月からは、大阪府立女子大院人間科学教養にして、東京と大阪を行き来する日々です。「辞めたい」とこぼす一度もなかった約四十年間の記者生活を語っておられたのです。

店じまい直前 独占インタビュー

4月から阪大教授に



卷之三

——「社説105年の歴史で、女性論説委員の登場ははじめて」——1984年10月19日付の天声人語より

——四月からは、何を教えるのですか。

学部では、前期が「橋梁工学」、後期が「医療ビデオの人間科学」、人間生物学」。本学院では、「介護保険と地方自治法改正」市民を通じて最も自治体幹部員の感度養成」についてです。滋賀県京都府をはじめました。

譜人天

後輩たちは……」「かわいい子にはその母を旅させよ、です」「1日30回、やめようかと考えた」